

の進め方を指導する。

具体的には、単元のオリエンテーションにおいて、その運動領域で高まる体力について考えさせ、意識させた上で準備運動や体ほぐし運動、技能を高めるための補助運動を実施する。毎時間の終末時には、体力づくりカードに記入させ、活動を振り返らせる。また、教師は、児童の実践を見守り、助言や賞賛などの言葉掛け等を行う。

「評価」

まず、体力の「伸び」を確かめさせるために測定を行う。次に成果を確認するとともに、これまでの取組を振り返らせ、個に応じて目標や計画の修正や変更をさせる。

(3) 視点3「教師の個に応じたかかわり」

教師が、児童一人一人の実態に応じて、適切にかかわるために、(図4)のようにかかわり方の流れを考えた。

児童の実態把握

体力・運動能力調査や事前の意識調査をもとに個々の児童について体力の特徴や運動の実践状況を調べ、なかなか運動意欲が高まらない児童や運動意

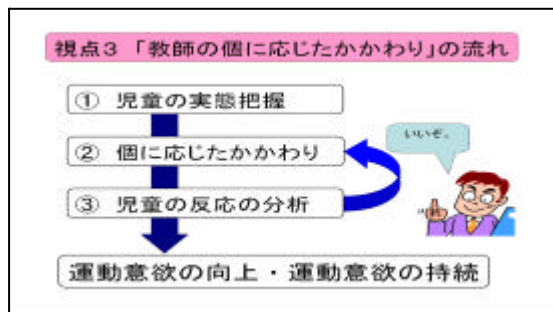


図4 視点3の流れ

欲が高まっても持続しない児童を把握する。特に気になる児童については、性格面や生活の様子などについても把握しておくようにする。

個に応じたかかわり

運動意欲を高めたり、持続させたりするためには、教師の言葉掛けや姿勢は大切である。このことについては、西田²⁾(1996年)「体育教師の発言カテゴリー」を基に、体力づくりに関する指導の場面を想定した言葉掛けを考案した(表1)。このような言葉掛けを有効にするためには、教師と児童との信頼関係を築くことが大切であるため、カウンセリングマインドを生かした姿勢で接していく(表2)。

子どもの反応分析

教師のかかわりに対する児童の反応を補助簿に記録し、変容を把握し、新たな目標の提示や実践への賞賛など、その後のかかわりに生かしていく。

表1 体力づくりに関する指導場面を想定して考えた言葉掛け

分類	内容	具体的な言葉掛の例
ア 目標提示	目標やめあての提示、目標設定など	※「まずは、200くらいを目標にしよう。」 ※「今の記録から、10記録増やしてみよう。」
イ 助言	技術上の助言、学習方法のヒント、重要ポイントの指摘など	※「この運動したいね。こうしたらもっと楽しいよ。」 ※「いい遊び考えたね。計測し入れよう。」 ※「指輪組に取っ組み合いしよう。」
ウ KR	運動進行や結果のフィードバック、運動の結果に対する賞賛など	※「ずっと取り組んできたから記録が伸びたんだね。」
エ 承認	運動の結果や授業中の行為に対する承認、承認、賞賛など	※「よし、しっかり取り組んでるぞ。」 ※「元氣よく遊んでるね。これも体力づくりだよ。」 ※「しっかり、やってみよう。いいぞ。」
オ 自信向上	自信をもたせるような発言など	※「ちょっとおしただけで、こんなに伸びたんだ。続けよう。もっともっと伸びよう。」
カ 賞賛	運動の結果に対する賞賛など	※「こんなに伸びたのすていねえ。」 ※「さすがKさん、しっかり記録して取り組んでる。」
キ 激励・援助	励ましや援助など	※「大丈夫、今の記録が伸びなくても、しっかりがんばって来たらいい。頑張ることか大切だよ。」 ※「頑張って、先生と一緒にやってみようか。」

具体的な言葉掛の例の「※」については、体力づくりに関する指導の場面を想定して考案したものを示す。

表2 言葉掛けをする時のカウンセリングマインドを生かした姿勢

姿勢	具体的な内容
ア 子どもの話をよく聴くこと	児童生徒の発言を正否だけで決め付けないで、たとえ間違っているとしても、着眼点のよさとか、考え方のユニークさ等、その児童生徒の独自性を認める。
イ 子どもの気持ちを理解すること	授業中の児童生徒の発言や態度の背景にあるうれしさ、くやし、喜び等の気持ちを理解する。また、児童生徒の発言に対して、よく顔を見て、うなずきながら聴き、言おうとすることや訴えたい気持ちを理解するように傾ける。
ウ 教師自身が誠実であること	教師が、自分の過ちに気付いたときや発問の意図がうまく伝わらない場合等、その場で率直に認め、誠意に対応する。

鹿児島県総合教育センター指導資料 教育相談第112号「授業に生かすカウンセリング」より